

2023年6月23日

立教大学国際学術研究交流制度
2023年度「派遣研究員」報告書

1. 派遣概要

所属・職	観光学部・教授
氏名	韓 志昊
派遣機関名	Department of History and Cultures University of Bologna 所在国：イタリア
研究テーマ	①イタリアの観光宿泊施設の従事者が実践する Hospitality の実態を分析 ②新型コロナウイルス感染症発生後のイタリア観光の現状について
派遣期間	2023年4月14日～2023年5月14日（31日間）
研究経費	830,900円

2. 派遣期間中の活動

離日および帰国日を含め、派遣期間中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。

活動内容記入例）〇〇に関する調査、〇〇氏と研究討議、共同研究、講演、視察等

年月日	活動内容
4月14日～15日	離日、ボローニャ着
4月16日～17日	Annaclaudia Martini 先生と打ち合わせ
4月18日～21日	Department of History and Culture にて研究
4月22日	ボローニャ市内の観光施設やサービス環境を視察
4月24日～25日	ボローニャ市内、郊外の観光施設やサービス環境を視察、調査
4月26日～5月1日	フィレンツェの観光現状の視察、調査、観光施設で聞き取り
5月2日	Andrea Guizzardi 教授（Head of Center for Advanced Studies in Tourism）と意見交換、共同研究について打ち合わせ
5月4日	Claudia Minca 教授と打ち合わせ Francesca Sofia 教授（Head of Department of History and Cultures）を訪問、観光学部との学術協定書に署名をいただく。
5月5日～7日	Claudia Minca 教授の案内で Trieste 視察
5月8日	Alessia Mariotti 教授（President of the Rimini Campus Board）の案内で Rimini Campus 視察、共同研究に関する協議
5月9日～12日	ローマの観光現状の視察、調査、観光施設で聞き取り
5月13日	Annaclaudia Martini 先生の案内で Venice の観光現状の視察
5月14日	イタリア（ボローニャ）出発

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果、今後の研究の展望、本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望等を記入してください。

現在も大学として運営されている世界で最も古い大学としてギネス世界記録に認定されているボローニャ大学で研究活動を行う機会を得られたことは幸運なことで、1ヶ月の滞在中に様々な出会いと今後の研究活動の発展に繋がる経験ができた。

以下の3点に分けて主な成果を報告する。

① 研究・交流の内容

研究内容は、大きく二つのテーマに分けて視察やデータ収集を実施した。まずはイタリアの観光宿泊施設の従事者が実践する **Hospitality** の実態を調べるために、イタリア有数の観光都市（ローマ、フィレンツェ、ボローニャ）で異なる形態の宿泊施設での宿泊体験とともに、観察や聞き取りを行なった。イタリアは、世界的なチェーンホテルの影響が少なく、現地の組織や団体の力が強いことが特徴と言える。次のテーマは、新型コロナウイルス感染症発生後のイタリア観光の現状を把握することで、中国以外の世界からの観光客の入国がほぼ正常化した時期だったため、多くの観光客で賑わう状況を実際に見ることができた。イタリアの有名観光地は、コロナ発生前に **Overtourism** に悩まされていた状態よりも混雑していて、施設の予約等が IT 技術を使用することになったこと以外は、マスツーリズム時代の観光の形が続いている様子がとても残念でありながら、今後の研究に発展させてべき課題を発することができた。

以前から交流があった Minca 教授他、**Head of Center for Advanced Studies in Tourism** の **Andrea Guizzardi** 教授、観光経済学科所属でありながら、**Rimini Campus Board** の **President** を務める **Alessia Mariotti** 教授、若手で日本をフィールドとしている **Annaclaudia Martini** 教授と研究について意見交換をし、イタリアの観光について貴重な情報を得られたことは大きな収穫である。

② 今後の研究の展望

今回の調査をベースとし、また交流を始めた観光関係者とのネットワークを活用して、ヨーロッパにおける **Hospitality** の実践と実態に関する研究を本格的に進めることを企画している。アジア人研究者の視点を活かして、新しい発見ができるように努力していきたい。

③ 本学と派遣機関との交流にかかる成果、展望

派遣研究員に採択されてから渡航前に両学部の学術交流のための協定を締結することが決まり、訪問中に先方の協定責任者である **Sofia** 教授とお会いし、協定書に署名をいただくことができた。ボローニャ大は、東京大学を始め日本の主要大学と大学間協定を持っているが、**Department of History and Cultures** が日本の大学と学部間協定を結ぶことは初めてのことであり、観光学部としてもヨーロッパにおける大学との初めての学部間協定の締結となった。今後、様々な形で多くの教員による学術交流や学生の研究交流を期待したい。**Department of History and Cultures** があるボローニャ市は、観光地としての魅力だけでなく、地理的にイタリアの中心に位置し、他の都市や観光地へのアクセスが非常に便利なため、観光地としてのボローニャの調査・分析も重要な意義を持つが、他の都市との比較や調査を実施する際のベースとしての機能も備えていることは大きなメリットである。



写真 1: Prof. Sofia, Prof. Minca と協定書署名後



写真 2: Prof. Alessia Mariotti と Rimini Campus 学長室にて



写真 3: Prof. Andrea Guizzardi の研究室にて